

⑫ 公開特許公報 (A) 平3-169967

⑬ Int. Cl. 5

E 04 F 15/02
15/04
15/16

識別記号

序内整理番号

⑭ 公開 平成3年(1991)7月23日

G 7805-2E
B 7805-2E
F 7805-2E
E 7805-2E

審査請求 未請求 請求項の数 1 (全4頁)

⑮ 発明の名称 置敷き床材

⑯ 特 願 平1-306911

⑯ 出 願 平1(1989)11月27日

⑰ 発明者 林 守男 大阪府門真市大字門真1048番地 松下電工株式会社内
 ⑱ 発明者 山崎 清好 大阪府門真市大字門真1048番地 松下電工株式会社内
 ⑲ 発明者 峰岸 康之 大阪府門真市大字門真1048番地 松下電工株式会社内
 ⑳ 出願人 松下電工株式会社 大阪府門真市大字門真1048番地
 ㉑ 代理人 弁理士 石田 長七 外2名

明細書

1. 発明の名称

置敷き床材

2. 特許請求の範囲

(1) 床下地面上に置敷きされる置敷き床材であって、柔軟性を有するシート状の合成樹脂成形品製の基材の表層に複数の木質化粧板が積層され、基材の一個端に嵌合突部が形成され、他の端に嵌合突部が嵌合することができる嵌合凹所が形成され、嵌合突部と嵌合凹所の一方に抜止め突部が形成され、他方に抜止め突部が嵌入して抜止めを図る抜止め凹所が形成されて成ることを特徴とする置敷き床材。

3. 発明の詳細な説明

【産業上の利用分野】

本発明は、モルタル、コンクリート等により仕上げられた床下地上に直接に設置される置敷き床材に関し、詳しくは木質の表面を有しながら、木質系における反りを回避し、洗浄性も付与し、か

かる構成のものを製作容易に得るとともに、その施工において抜止めを行う抜止め構成も容易に形成しようとする技術に係るものである。

【技術的範囲】

從来から、モルタル、コンクリート等により仕上げられた床下地上に設置される木質床材は知られている。例えば、第4図に示す如く、木質合板のような木質基板1aの裏面に複数個の溝5を並設し、同裏面にクッション材6を貼着してなる木質床材Aaが知られている。ところでこのような木質床材Aaは、床下地上に接着成りは釘打ち施工等により固定されて設置施工されるものであり、溝5とクッション材6によって、防音効果が得られるものである。しかしながら、このような木質床材Aaにおいては、溝5が設けられているものの、木質基板1aには屈曲柔軟性がなく、充分な屈曲柔軟性を得るために、溝5の並設個数を増やしたりあるいは溝5の深さを深く形成した場合には、溝5に対応して木質化粧板2の表面に亀裂が発生し易く、強度及び表面意匠上問題となるものであつ

た。それ故に、木質床材A₁においては、充分な屈曲柔軟性がないままに、床下地上に施工されており、床下地への頸染みが悪いために、床下地上に接着剤は釘打ち施工等により固定して、強制的に床下地に頸染ませて施工していた。この場合、施工に接着剤は釘打ち等の作業が伴って、敷設施工が面倒であるとともに、木質床材A₁の取り替えが極めて困難となるものであった。加えて、木質基材1₁に多数本の構1の加工を精度良く行うのが繁雑となり、その製作面及び機器面において問題があった。しかも第5図に示すように、木質基材1₁の一個端に嵌合突部3₁を形成し、他側端に嵌合凹所4₁を形成して、両者を嵌合させて木質床材A₁、A₂同士を接続するのであるが、かかる接続に際しては、嵌合凹所4₁に接着剤dを充填して抜止めを図るのである。ところがこのように接着剤dを充填するものにおいては、その嵌合時に接着剤dがはみ出し、これの拭き取り作業を要する等の問題がある。

【発明が解決しようとする課題】

れて成ることを特徴とするものである。

【作用】

このように、柔軟性を有するシート状の基材1の表面に薄い木質化粧板2が接着されることによって、柔軟性を有するシート状の基材1には木質基材のような反りが生じることがなく、基材1には柔軟性によって捲き性を付与し、床下地面に頸染みないようにし、床下地の凹凸をより吸収し、床下地面によりぴったりと接することで、置き床材A₁の滑りを抑えることとなって、床下地上に直接に接着剤は釘打ち等の作業を行なうことなく簡単に敷設(直張)施工が行えるようになし、かかる柔軟性を有するシート状の基材1にて振動の伝播を抑制し、防音性も高め、構加工を回避して、その生産性を高め、そして成形品の基材1とする場合には、樹脂の選択に寸法の安定化を図りやすく、接続のものとの結合を図る結合部の製作も容易になし、コストダウンも図れ、種々の付加価値を加えることができ、しかも基材1の一個端に嵌合突部3₁が形成され、他側端に嵌合突部3₁が嵌合することが

本発明は、上記從来の技術における欠点を解消するために発明されたものであり、その課題は、基材に充分な屈曲柔軟性があつて、床下地への頸染みが良く、しかも、木質化粧板の表面側には龟裂が発生し難く、強度面成は表面差圧上の問題がなく、床下地上に接着剤は釘打ち等の作業を伴うことなく敷設施工でき、かつ振動抑制及び防音を充分に充分に行なうことができ、その生産も大巾に高めることができ、かつ接続に際しても容易迅速に行なうことができる置き床材を提供することである。

【課題を解決するための手段】

本発明の置き床材は、床下地面上に置きさされる置き床材である、柔軟性を有するシート状の基材1の表面に薄い木質化粧板2が積層され、基材1の一個端に嵌合突部3が形成され、他側端に嵌合突部3が嵌合することができる嵌合凹所4₁が形成され、嵌合突部3と嵌合凹所4₁との一方に抜止め突部3₁が形成され、他方に抜止め突部3₁が保入して抜止めを図る抜止め凹所4₁が形成され、嵌合突部3と嵌合凹所4₁との一方に抜止め突部3₁が形成され、他方に抜止め突部3₁が保入して抜止めを図る抜止め凹所4₁が形成さ

れるが嵌合凹所4₁が形成され、嵌合突部3と嵌合凹所4₁との一方に抜止め突部3₁が形成され、他方に抜止め突部3₁が保入して抜止めを図る抜止め凹所4₁が形成されることによって、嵌合突部3を嵌合凹所4₁に嵌合させるとともに抜止め突部3₁を抜止め凹所4₁に保合させることで、接着剤の使用を回避して、置き床材A₁、A₂同士の接続を容易迅速に行なえ、置き施工に有利になし、かつかかる接続のための構成も容易に得られるようになしたものである。

【実施例】

以下本発明の実施例を図面に基づいて詳述する。

木材を薄くスライスして木目を有する突板(スライス单板)のような木質化粧板2が、合成樹脂で柔軟性があり、シート状の基材1の表面に積層してあり、その基材1の一個端には嵌合突部3₁が形成され、他側端には嵌合凹所4₁が形成されていいる。このような嵌合突部3及び嵌合凹所4₁の形成は、基材1の成形時に同時に行なわれる。そして木質化粧板2は、0.25mm~0.6mm程度の厚

そのスライス单板に1mm～2mm厚を程度の乾式のラワン单板を真打ちしたものや、1mm～3mm厚さ程度のスライス单板のみのものがあり、このような木質化粧板2を合成樹脂製の成形品の基材1にその成形時に接着力があるか、別途に接着剤にて接着する等するものである。そして基材1は例えば金属粉末を混入する等した遮音性及び防音性の高い遮音シートを使用するとよい。

このように、柔軟性を有するシート状の基材1の表層に薄い木質化粧板2が接着力されることで、柔軟性を有するシート状の基材1には木質基板のような反りが生じることがなく、柔軟性によって接着性が得られて、床下地面に良好に調和するのであり、床下地の凹凸をより吸収し、床下地面によりびったりと接するのであり、しかして置き床材A、A同士の接縫を容易迅速に行え、置き床施工に有利になし、かつかかる接続のための構成も容易に得られるのである。そして柔軟性を有するシート状の基材1にて振動の伝播を抑制するのであり、又、防音性も高めるのである。

向は嵌合突部3と嵌合凹所4との嵌合方向を示している。

【発明の効果】

以上要するに本発明は、柔軟性を有するシート状の基材の表層に薄い木質化粧板が接着力がある、柔軟性を有するシート状の基材には木質基板のような反りが生じることがなく、基材には柔軟性によって接着性を付与し、床下地面に調和するようにし、床下地の凹凸をより吸収し、床下地面によりびったりと接することで、置き床材の滑りを抑えることとなって、床下地上に直接に接着成は打ち等の作業を行うことなく簡単に敷設(直張)施工が行えるのである。そして柔軟性を有するシート状の基材にて振動の伝播を抑制することもでき、構造工を回避して、その生産性を高め、そして成形品の基材とする場合には、樹脂の選択にて寸法の安定化を図りやすく、隣接のものとの結合を図る結合部の製作も容易に行え、コストダウンも図れ、種々の付加価値を加えることができ、しかも基材の一面間に嵌合

そして構造工を回避して、その生産性を高めるのである。又、合成樹脂製の成形品の基材1故、樹脂の選択にて寸法の安定化を図りやすく、隣接のものとの結合を図る嵌合突部3及び嵌合凹所4のような結合部の製作も容易に行えるのである。

そして、嵌合突部3には第1図に示すように、嵌合突部3aが形成されるのであり、嵌合凹所4aには嵌合突部3aが係りして嵌合を図る嵌合凹所4aが形成されている。しかしして、嵌合突部3を嵌合凹所4に嵌合させるとともに嵌合突部3aを嵌合凹所4aに係合させることで、接着剤の使用を回避して、置き床材A、A同士の接縫を容易迅速に行え、置き床施工に有利になし、かつかかる接続のための構成も容易に得られるのである。そして接縫に照しては、嵌合突部3の嵌合に伴って嵌合凹所4の下片4bが下方に弹性変形し、嵌合後は下片4bが復元して、確実な嵌合を図っている。そして第2図及び第3図の矢印D方向へのスライドにて、木口方向に移動させ、置き床施工が行なわれる。第3図の矢印E方

向が形成され、他の面に嵌合突部が嵌合することができる嵌合凹所が形成され、嵌合突部と嵌合凹所との一方に嵌合突部が形成され、他方に嵌合突部が係りして嵌合を図る嵌合凹所が形成されているから、嵌合突部を嵌合凹所に嵌合させるとともに嵌合突部を嵌合凹所に係合せることで、接着剤の使用を回避して、置き床材A、A同士の接縫を容易迅速に行え、置き床施工に有利になし、かつかかる接続のための構成も容易に得られるという利点がある。

4. 図面の簡単な説明

第1図は本発明の一実施例の接縫作用を示す断面図、第2図は同上の接縫状態の断面図、第3図は同上の施工形態を示す平面図、第4図は從来例の断面図、第5図は從来例の接縫作用を示す斜視図であり、1は基材、2は木質化粧板、3は嵌合突部、3aは嵌合突部、4は嵌合凹所、4aは嵌合凹所である。

代理人 弁理士 石田長七